

5 番 佐藤安美です。通告にも基づきまして一般質問を行います。

1 獣医師確保対策について

令和3年4月に初当選をし、同年6月の定例会に獣医師確保の重要性に鑑み、一般質問を行ったところですが、その後の状況について、令和6年6月定例会に2回目の一般質問を行いました。

当管内の農業共済組合の家畜診療所は、令和4年4月に廃止となりました。その後、町内の開業獣医師2名は、昼夜問わず診療していただいておりますが、心配していた獣医師1名の死亡と1名の体調不良のため令和6年度で廃業となり、非常に残念な思いではありますが、当地区は獣医師不在の状況にあります。

現在は宮古市と葛巻町の開業獣医師から本町の畜産、酪農家の診療に携わっていただいております。しかしながら、町外の獣医師を依頼しても地元優先で、遅い農家は夕方から20時、21時頃の診療になると言われています。町内の獣医師が不在であれば夜間の緊急診療体制もできず家畜を死亡させる事態になれば、大きな損失につながり、

死活問題になると共に、一次産業の衰退を招くことが懸念されます。

令和6年6月定例会の質問において、獣医師確保について質問した際の答弁は、町内の開業獣医師も高齢となり、円滑な家畜診療体制を講じなければならない。本町の畜産、酪農の振興、発展のためには家畜診療体制の整備は必要不可欠である。引き続き獣医師確保に取り組んでいく答弁をいただいております。その後の経過と、今後の対応について、町長の所見をお伺いいたします。

2 廃校舎の管理について

本町では、学校統合が進み、有芸小学校は令和8年度末をもって閉校し、令和9年度からは、小学校3校、中学校3校となります。廃校舎も増え続け、維持管理、環境整備は学校整備作業員と地域団体への委託などにより行っているものと思います。

廃校舎の利活用は厳しい現状ですが、旧大川中学校は、通信制一ツ葉高等学校へ貸し出す計画で、開校は令和9年春と伺っています。

その中で校舎の貸借は現状のままで良いと一ツ葉高等学

校側から言われたと伺いました。

しかしながら、去る 7 月 23 日に産業常任委員会の所管事務調査の折に旧大川中学校の現状を再確認いたしましたが、現状を見ればあまりにも酷い屋根の状況と認識いたしました。「雨漏りしていないから大丈夫」との担当課の発言もありましたが、雨漏りしてからでは、修繕費に多額の費用が掛かると思われます。早急に対策をするべきです。

そして、一ツ葉高等学校の関係者、生徒には、旧大川中学校で学び、地域社会の魅力を感じてもらえるよう、旧大川中学校を選んでよかったと感じてもらえるために環境整備をするべきと思います。

町長の所見を伺います。

5番 佐藤 安美 議員の御質問にお答えします。

1点目の、獣医師確保対策についてであります。議員ご案内のとおり、令和4年4月の岩手県農業共済組合宮古家畜診療所の廃止、令和6年4月からは沿岸地域が家畜診療区域から外れ、更に町内開業獣医師の廃業等もあり、田野畑村を含む当地域は、地域外の開業獣医師の往診に依存する最低限の獣医療提供の体制にあります。

このことから、田野畑村と連携し、県及び県農業共済組合に対し、安定した獣医療の確保について要望を行ってきたところであり、県、田野畑村、新岩手農業協同組合と下閉伊北部地域の獣医療の確保について協議を継続してまいりました。

こうした取り組みを行っている中、昨年11月に本町出身の獣医師から、盛岡市在住の獣医師の紹介を受け、当地域での開業について交渉を行ってまいりました。

その結果、令和9年度からの開業について意思確認をすることができ、一定の目途がたったところです。

現在も家畜診療機関に勤務される獣医師であり、個人開業に向けてゼロからのスタートとなることから、必要な資機材等の支援が必要であると考え、田野畑村と協働し支援することとしており、本定例会の補正予算において、獣医師確保対策事業補助金を提案させていただいております。

また、家畜診療体制の維持は、農家が安心して畜産経営に取り組むための重要な基盤であり、開業後も地域全体での支援体制を継続する必要があると認識しておりますことから、県、田野畑村、新岩手農業協同組合との連携を更に強化し、必要な取り組みを行ってまいります。

2点目の、廃校舎の管理についてであります。議員ご案内のとおり、令和9年4月から通信制高等学校「一ツ葉高等学校岩泉校」の開校に向け、現在準備を進めております。

校舎として活用いただく旧大川中学校にしましては、運営主体である「株式会社アイアムサクセス」との協議において、現状での使用貸借を基本とした内容でお互い確認をしております。

ただし、使用に支障が生じる暖房機器や水道設備につきましては、町で修繕を行い、使用に支障のない環境を確保する計画としております。

議員ご指摘の屋根につきましては、その老朽化の状況は十分に把握しており、近い将来における修繕の必要性は認識しておりますので、今後、施設の安全性や長期的な運用を見据え、運営会社との協議を通じて、屋根の件も含め、施設の修繕の必要性や費用負担のあり方について話し合いながら良好な環境の整備に努めてまいりたいと考えております。

以上で答弁を終わります。